



今日のトピック 堅調に推移する豪州経済（2017年11月）

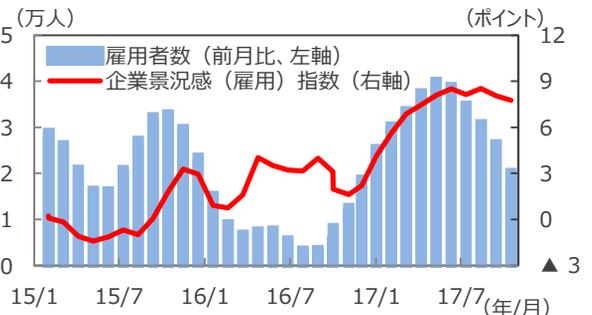
金融政策は中立維持の見通し、豪ドルは底堅い展開へ

ポイント1 雇用は増勢を維持

家計消費の拡大を支える見通し

- 2017年10月の雇用者数は、前月比0.4万人の増加でした。雇用者数は月毎の変動が大きいので、振れを均したトレンド値を見ると同2.0万人増となり、失業率を引き下げするのに必要とされる雇用増加数（過去5年間の平均で月間1.5万人増程度）を引き続き上回りました。一方、失業率は9月の5.5%から5.4%に低下しました。雇用の伸びには鈍化の傾向が見られますが、企業の景況感指数が高い水準にあり、採用意欲は強いこと等から、失速の恐れは小さいと考えられます。
- 小売売上高は、7月の前年同月比3.5%増から8月の同2.1%増、9月の同1.4%増と勢いが落ちてきました。しかし、労働市場が改善傾向にあるため、今後は再び増加の勢いを強める見通しです。

【豪州の雇用者数と企業景況感指数】



(注) データは2015年1月～2017年10月。雇用者数はトレンド値。企業景況感(雇用)指数はNational Australia Bank作成。3カ月移動平均ベース。

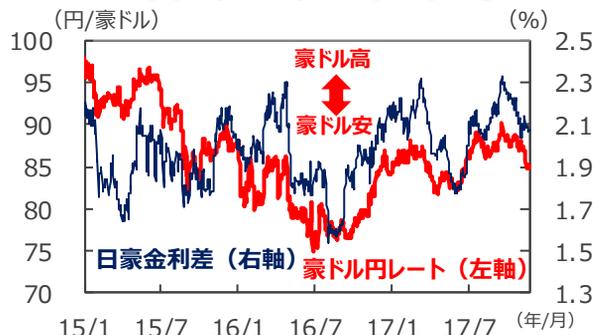
(出所) Datastreamのデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ポイント2 当面、金利据え置きの見通し

景気は堅調だが、物価が目標に未達

- 直近7-9月期の消費者物価上昇率は、豪州準備銀行(RBA)が重視するトリム平均値で見ても、前年同期比+1.8%となりました。
- RBAの目標レンジである+2%～+3%の下限を引き続き下回りましたが、RBAは、①企業部門の好調が家計部門に波及するにつれて、経済成長率は加速する、②物価上昇率もRBAの目標レンジに向かって緩やかに高まる、との見通しを据え置きました。これから判断すると、RBAは、今後も中立の政策スタンスを維持すると考えられます。

【豪ドル円レートと日豪金利差】



(注) データは2015年1月2日～2017年11月24日。金利差は豪州-日本。金利はともに3年国債利回り。

(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 豪ドルは底堅い展開へ

- 足元の豪ドルの対円相場は軟調に推移していますが、金融政策がRBAの中立姿勢維持に対して、日銀は緩和姿勢継続の見通しであること、鉄鉱石等の資源価格の持ち直しが見込まれること等から、今後は底堅い展開が予想されます。

ここもチェック! 2017年11月21日 鉄鉱石・石炭の価格と豪ドルの動向（2017年11月）
2017年11月 7日 豪州の金融政策は引き続き据え置き（2017年11月）

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。